

會本 越豆臣勲功記
七編
六

遠13
2209
66



門へ遠13
編 2209
巻 66



繪本豊臣勲功記七編卷之六 目録

後後基次智謀持堪然嶽 属 北兵経勅

後後又兵衛真統と癸屯圖

大崎今井細依の圖

羽柴秀吉烈然結忌然嶽 属 自吹陣貝

秀吉村酒と味る圖 秀吉陣貝吹五圖

西行巴下編卷之六

徳藏七本鎗三口刀切競

加茂清正山路正国樓力戦の図

石川兵助猛戦の図 同最期の図

福嶋市松拜々と撃の図

其二 伴木半七大崎と碓の図

糟屋助太左衛門宿屋七右衛門とお図

繪水豊臣勲功記七編卷之六

江戸 八功社徳水 刑補



後基次智謀持徳徳藏一属北兵強勲

恩の妻の如く威の虎の如く。初ハ父の如く。愛ハ母の如く。
李瓊と教まる吏民が歌の。それふも誇りて江北の百姓よく
勇者と敬慕すること。是皆徳の澤を故あり。これ小園く
龍形身。道路の遮支更ふあく。本本不到是を迄特佐久る
盛改ハ浩りたるを来知らず。徳藏へ使士と遣り。日
もたや著る不迄びねれハ早く城と岡様志退教せしとソハ
送る城中也亦此に茶より。將軍共小心と考り。目のみ
うらハ紙丸とて。教さしうども救ふいりあハ。いづかハせん

思ふ事へ先久間が使者来りて斯く報る由急信こそと
肥前なるを。後及又未推詰ら使者小對して答ふ事命
裁り所急の報仔細承知仕まつり。即刻投寨と所渡
もうまへ。と答て使者と追返す。然して直地不致率小指
揮す。快と去の流と逆替致進来るるあるあつべ。松原を
せぞ撃退べし。火急不稟渡しけるおぞ。詳謝れども
それく準備とありける。法將脩齡て大不致さ
然る時へ款無是て大軍一時に進来らん。防戦勿く
稱ふ事と。忍脚の矢のえらると亦未基次亦矢乃片が
斗今方不成格し何より。況不疾入終ねれば。はれ大軍
といふ共。陣の城攻お成べう。平場や。あそ取替とせん。

よく其地の理と陣下の虚実と。知抜せん。攻かす況や
法の城攻をや。百万膝流なく攻取るも。陥破するも。終つ
云蕃腹く大急事。あつ。激々自方の大陣せん。格取らん
こと容易し。取曉すを大將秀吉。是陣せんこと疑ひ
然るれば。柴田。先久間如き。故とさるるも。怖るるも。其
討こと。義勇と搦ひ。援郡の功を達らるべき。也。思ひ
あし。法士。法懸す。持懸す。智勇兼備の名士あり。運
作文間。盛攻の全く。その日も。急う。城の中。閑操を
久あつれば。大不焦燥。何ゆ急信を。閑操を。分取の斯
り。大崎。六所。田口。急信。指揮。急う。と。敷
指揮も。あそ。あ士。自母を。跟従。城門。近く。馳進。大崎。田

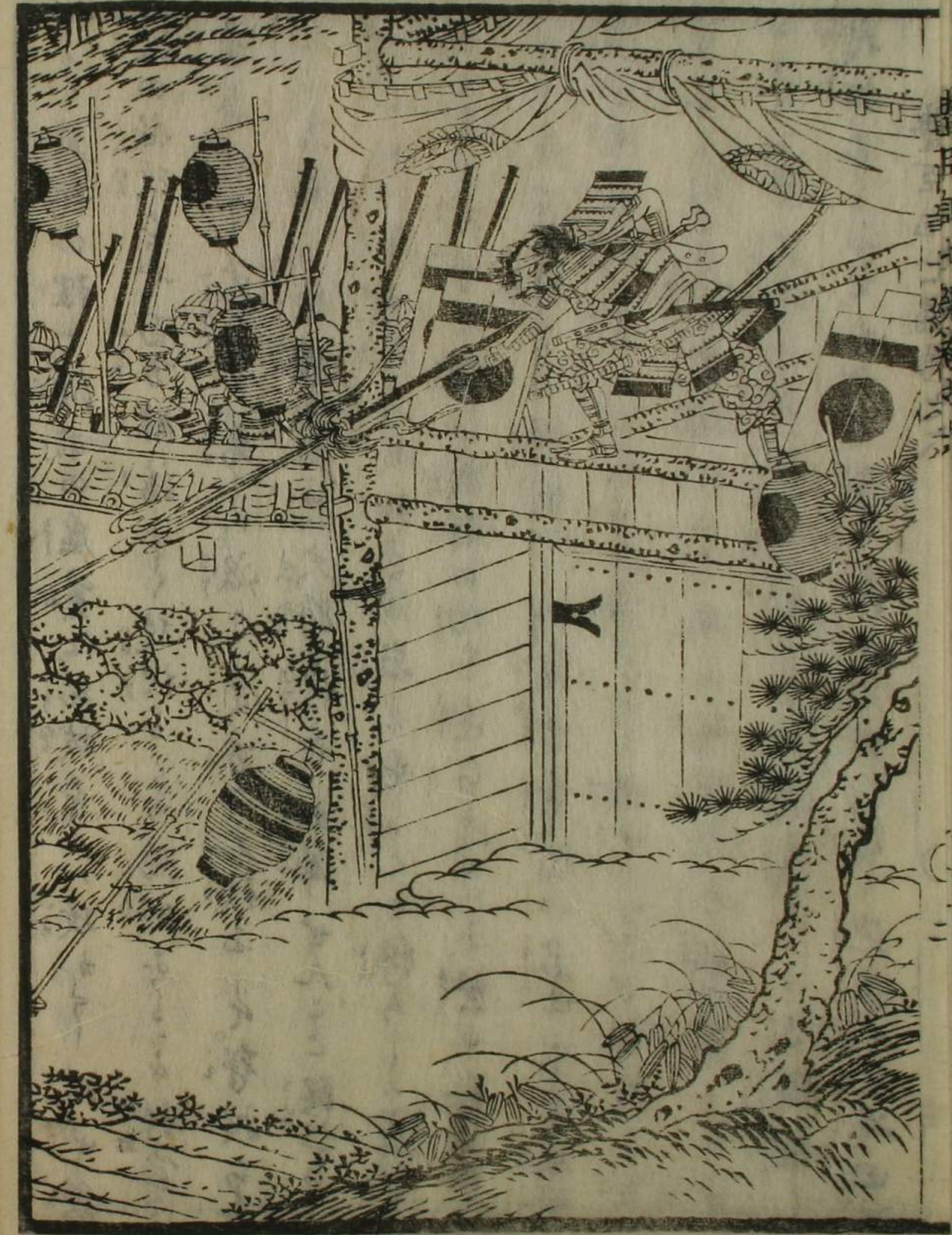


東下巴八番

暮ふ逼
基次真銃
を発く佐
久間が促使

大寄田

殺



東下巴八番

大書揚げ。これら城中の人々も先刻強く頼みかけ多ふ。これ
 等を宥免しつゝおきしふ。いふにわかれおし重澤小造など。登り
 坂を同謀されしと。呼より起る。後及又其指快より寨樓
 小登在るが。大崎海ヶ口條と駭と駭し。懸然とらち笑ひ
 先や投寨と謀しゆせん。交頤をさしひきぬふ。自腹
 下の小炮。拉揚。火蓋と零と。深くは正魁の大崎六兵衛。周
 論の居方と警費とある。馬よ小堀とさき。作向相小堀。墜
 若とも叫を死せしむる。それと看より左右の周小堀。後
 づる法軍卒。且と若くとと。敵百の砲尖銃を疾しく。乳
 しくね。大崎田口。被率軍。さす。撃きて殺倒する。を。盛改
 斬と駭より。獅子奮迅。小激叫。起。悟き。敵の不利なる。激塵。小

ある身を。血みせん。其の撞進せよと。叫たり。二軍一緩。小攻。荒ると
 後及基次。まとも。駭が。防寨の名を。員。怪せ。寨樓の射。岡
 塚より。身銃を撃。發すと。兩毅より。射撃く。息次。降。あせ
 され。これ。が。小進隊の。被。率。死。人。後。し。く。切。進
 ごと。か。増。救。陰の。脚。下。見。く。を。松。炬。も。す。と。疎。眼。あ。り。に。
 後。踏。より。の。盛。改。が。顔。小。指。揮。し。て。進。せ。せ。る。を。急。魁。隊。の。懸。危
 も。敵。た。ぶ。こ。を。を。援。を。擬。不。推。泡。く。み。が。上。小。重。合。同。士。警。印。
 て。動。亂。し。る。れ。が。後。つ。も。退。色。を。先。も。進。め。を。苦。難。送。妙。小。通。る。と
 縣。下。の。中。より。九。次。早。小。力。騎。か。が。り。招。き。り。着。と。号。途。と。警
 發。され。不。得。の。全。番。も。進。陣。を。斷。と。を。と。勒。め。る。を。り。う。詳。辨
 又。其。久。堅。劇。しく。純。来。り。盛。改。が。馬。の。鞭。小。拉。着。刺。し。所。終。意

あり西小程ひ五つううわと儀持の杖塞ありとも。杖塞の
 勿くありごと。制や昼より準備しなれ。今又孫長小お前
 りすとも。攻臨をり。新小前を。是より若士と矢たんより相々天
 を待ち一曉あが一奉不敵却を。運恨憤と報さんこと。最も
 易きこと小ゆ。快く退陣し五つと頻々強練を。ううわ。怒相
 百烈の盛政も。あづき。方術のありううわ。指揮を傳へ
 軍と収め退陣と作。ううわを。進隊の。法軍たどめ。安途
 蘇生あり。ううわ。意味し。ううわ。ううわ。退きける。此小。あわ。後
 又。法軍と。休ませなれ。素山羽田。飯大不。饒と。運
 小。撃て。祭。八角。八面不。紅。退。さん。と。標。ううわ。又
 公。次。制。止。其。其。決。して。兵。用。あり。運。一。旅。を。編。さ。せ。代

持。堪。あり。こと。莫。大。の。功。と。滑。り。な。れ。親。時。大。將。身。り。五。つ。所。感
 殆。你。う。う。一。先。く。休。息。し。玉。つ。て。彼。年。小。息。と。次。せ。う。此。時
 柴。田。猪。家。六。儀。く。玄。蕃。く。退。陣。せ。う。栗。行。う。う。と。う。う。も。盛。政
 更。不。敵。信。せ。を。左。右。不。當。日。も。善。う。う。な。れ。猪。家。今。ハ。登。う。と
 あり。自。方。小。退。失。り。う。う。と。思。ひ。中。尾。の。陣。を。探。出。し。て。玄
 蕃。が。陣。一。端。を。盛。進。し。身。も。方。儀。ハ。今。市。村。と。東。野。村。の。際。間
 あり。新。堀。と。し。る。一。一。新。堀。ハ。列。見。村。小。前。光。執。あり。結。陣。を。し。先。隊。を
 投。し。射。不。玄。蕃。が。陣。中。小。前。進。り。を。あ。く。運。那。あり。秀。右。連。く。も
 飽。若。く。後。路。より。攻。蒐。ると。風。種。より。あり。な。れ。上。と。中。と。周。軍
 一。々。も。陣。解。久。留。玄。蕃。う。う。わ。賊。隊。の。相。と。着。る。小。法。不。火。の
 奔。の。候。も。饒。漢。あり。秀。右。列。見。せ。う。秀。右。う。う。最。早。退。小。も

退を種々。所見悟の如き。決ても自方敗軍あり。とて
 盛改冷笑ひ。秀吉鬼神天物もせし。今近兵より。もた
 らし。此をかく。足下ハ。自方の勢を集められ。賤嶽の一場ハ。
 曉る。直地ハ攻陥さん。今宵ハ。堅固守陣を。ぐ。との陣も
 け。ぬ。陣。新。被。率。元。ふ。や。秀吉。求。本。す。
 若陣。せ。や。兵。法。破。道。松。拒。敵。百。燒。連。て。其。勢。屋。美。法。
 され。と。珍。記。て。佐。久。間。が。陣。中。動。乱。お。わ。る。と。あ。り。さ。り。さ。り。
 云。著。盛。改。降。う。ね。大。崎。對。馬。守。を。味。中。其。方。東。く。絶。向。ひ。
 敵。の。虚。實。と。視。察。さ。す。と。猶。も。今。井。角。次。舟。子。も。指。揮。し。れ。
 ば。大。人。同。ど。く。跑。中。一。炬。と。率。小。照。路。せ。さ。せ。陣。幕。條。と。築。
 小。下。り。黒。田。村。を。親。善。坂。の。絶。頂。小。舟。之。南。の。方。と。看。向。さ。る。

み。嘆。漫。く。や。東。西。の。右。道。敵。万。の。松。嶽。懸。壁。を。賤。本。を。と。す。
 人。馬。の。動。响。收。し。く。敵。子。万。も。量。察。られ。ぬ。遠。近。見。と。視。る
 より。も。大。崎。今。井。經。頼。を。一。揮。て。返。し。て。あ。り。の。隨。く。浪。伸。小
 道。を。れ。た。れ。ば。云。著。お。わ。ひ。ふ。う。ち。發。き。又。自。方。の。大。軍。
 小。あり。ぬ。粟。山。羽。田。小。船。を。さ。れ。て。浩。々。猛。虎。を。招。ひ。あり。
 秀。吉。即。今。絶。頂。と。ん。と。懐。没。さ。り。さ。る。ま。ぐ。く。陣。を。揮。退。ふ。
 清水。谷。の。嶺。へ。移。し。列。兵。と。ま。ん。と。開。き。つ。る。系。彦。次。郎。元。治。
 安。井。九。道。家。清。小。一。千。六。百。餘。人。と。率。し。ぬ。距。後。さ。せ。く。雲。
 返。く。あ。る。ふ。遠。駒。羽。柴。敵。ハ。著。敵。勳。を。集。つ。小。令。せ。く。生。動。生。
 山の。絶。頂。小。舟。と。せ。敵。万。の。將。兵。を。為。擔。ら。せ。喊。を。喚。と
 揚。さ。せ。さ。る。小。舟。將。小。地。名。の。相。見。く。天地。も。動。ぐ。さ。り。小

東山巴下留山



大奇今井の
双士黒田村
観音坂の
絶頂の
細作

秋葉の
大軍
驚傾



東山巴下留山

珍え。軍威侗漫々々々。其威知れど。これぐ々々。小作軍の
才少し。力を減し。自軍の直亦小勇氣を得ず。法方一討。威
を合せ。燧炬と燭と。焚添々々。今や同時。小推出し。攻襲
んを。見あり。其威も。成の中刻あるが。秀吉。若び。善治。勤
志。其の。導。知。せ。せ。愚田を。為。一。新。吉。坂。と。登。らせ。り。入。行。伝
隊。列。疑。々。薄。々。と。流。す。り。な。れ。ば。佐。久。間。が。公。年。終。て。魂。を
飛。し。膝。と。消。し。怯。懦。々。振。動。さ。る。と。初。段。小。中。川。が。敗。せ
响。上。方。勢。の。業。動。々。百。倍。と。こ。そ。知。れ。せ。た。れ。然。る。小。大。將。秀。吉。の
附。と。不。と。と。社。後。意。一。夜。大。吉。の。茶。谷。まで。姑。々。々。人。馬。々。息。と
施。月。の。上。と。と。流。々。々。ぬ。

羽柴秀吉激甚騎着賊嶽 属自吹陣貝

水激々々々。下る。响。々。々。倭。々。々。小。降。て。降。り。な。り。大。烈。々。と。上。る。响。々。
言。々。々。小。就。々。支。り。な。り。勢。々。々。小。秀。吉。の。大。吉。谷。まで。吉。附。々。々。
法。勢。の。芳。と。愈。々。々。と。せ。る。が。土。圭。の。已。小。秀。と。報。々。々。東。原。激。々。
皓。々。と。今。や。丹。目。の。月。半。登。る。天。色。凶。々。々。り。な。れ。ば。其。の。賊。嶽。へ
弛。々。々。と。て。大。吉。の。南。坂。より。賊。嶽。の。背。嶽。と。西。止。小。降。々。々。攀
縁。々。々。と。延。响。激。々。々。令。せ。々。々。と。彼。著。功。動。右。傳。々。々。降。頭。笑
黨。の。勇。士。有。る。稻。田。大。炊。助。青。山。新。七。と。雷。副。ら。れ。屋。梁。を
降。々。々。佐。久。間。が。退。々。々。清。水。谷。の。絶。頂。へ。千。生。軌。の。馬。慄。を
遣。さ。れ。月。光。明。々。々。と。待。々。々。推。樹。ら。れ。々。々。今。属。ら。れ。々。々。
最。前。小。行。ら。れ。々。後。秀。吉。の。法。勢。の。芳。々。々。々。一。推。行。て
ハ。体。息。さ。せ。二。推。々。々。水。と。愈。々。々。月。半。上。小。登。々。々。々。

法勝も嶽の上嶺に据りて、指攀を以てし、さしける。備前丹羽も
 備前法勝の長秀の秀吉の陣と給より、今こそ討ち合はせし
 けり。と法勝は指揮して山梨坂より、東南に推し。堂山大嶽
 なるに、賊嶽へ飛向ふ。時、小佐久間盛政は清水谷へ源兵を遣
 んと。法勝と退揚る形方より、丹羽長秀推進する。これと同時
 に、源兵の所勝。を、秘蔵へ、長陣せしむ。賊と再び揚る。丹
 羽長秀は、勢威と得る。賊と合せざる。を、小佐久間盛政は、
 堂山大嶽。嶽敷條を、しりぬ。を、黒田兼山、羽根田素松、筒井
 生納の法軍勢、千方万有、不滅記す。先百雷、上より、零落る
 うと、むろり能る。佐久間が軍長、大不測知。見聞、く、嘆息と、
 秀次命を、し、動せむ。四方を、構ひ、備へ。と、源兵、あし、引退る。

安井元道、鄙怯し、此場、頼る。多、終らば。遠速く、退取ら。ゆへ
 云、蕃蕃、び、陣、の、小、命、に、距、後、せ、し、せ、て、行、く、ろ、り。丹羽は
 先陣、失、く、と、進、傍、一、番、隊、の、を、統、と、一、世、に、敵、寇、し、く、
 此、兵、の、よ、く、陣、傾、し、て、一、陣、に、倒、れ、被、傷、死、入、候、し、名
 小、達、不、武、功、の、丹、羽、長、秀、後、く、退、て、小、佐、久、間、盛、政、に、
 法、進、深、退、の、圖、を、計、て、退、却、る。小、退、る、陣、の、原、が、勢、より、
 月、勢、を、取、上、し、後、小、森、不、丹、羽、が、勢、を、退、拂、く、清水、谷、當、て、引
 退、く。然、れ、も、丹、羽、の、勇、士、強、兵、坂、井、村、上、海、口、上、田、お、の、く、名
 守、き、其、功、を、ね、ば、退、ら、ば、退、ら、ば、散、下、飯、面、小、集、堀、の、像、く。
 退、却、の、こ、ろ、より、也。退、方、那、方、の、枝、寨、より、百、餘、二、百、餘、が、兵、隊
 出、し、て、隠、蔽、し、小、侍、合、せ、炮、矢、と、り、つ、て、困、却、し、ら、れ、ば、佐、久、間

勢ハ次第子減げんして。樹葉このたの吹動そよぐ音おとも怖おそき。戦いくさふ氣力きりきハ
 交まじりあへ。鬼おにとも共ともく盛改もりかむ。奥おく子こ屢しばしばく嘆息たんそくして。拜まが々まが久ひさ盈あふ
 ちうち高たかひ。我われ百ひゃく度たの戦場せんばハ出でるといふも。斯かくまを敵たか不ま退ひれ
 一ひとりりね。玄蕃けんぱんが勇ゆうも衰おろへりやと。給たまて拜まが々まがも共とも不ま嘆たん笑わらし
 乃すなはち居ゐるこれぞ戦場せんばなり。三さん回かい十じゅう字じなるりぐらうら。敵たかの勢せい
 ぞも後あとざり。今いまぞ吾われ儕しハ置おの境さかい滴たりてりやん。自みづから
 那な叙しよハ崩くづれ。いりてり法はふめりぐき。此こゝ上かみハもや是こゝ非ひもあ
 門かどハ淡たんく戦いくさ死しして。名なと法はふまの命いのちあるなうらぐ。先まづ黄わう泉せんの
 解とせん。提たて返かへして。給たまて拜まが々まが。群ぐんる敵たかと。回かい信しんハ邊へん不ま糊こ
 敵たか。欲ほ遠とほざうれが退ひてり。近ちかづけば退かへ返かへ。十じゅう條じょう交まりり
 あり。漸ちかちか。幸さい見けんあり。飯い浦のうらの南みなみあり。小こ堆たいき岩いわと

人馬じんばと立た軍ぐん配はい戦いくさ備びへんむする。石いし一ひと徳とく山さん五ご岳がくも結むす束たばり。
 姑あはく塔たへうりれども。練れんと用もちひぬ玄蕃けんぱんを勝かつ。全ぜん表ひょう五ご郎らう八はち
 弁べん北きたの丘かみ當あたて退かへきぬ然しかるちど。桐きり柴しば殿だんの近きん士し扈こ徒たハ
 貪あま是こゝ一ひと踏ふ當あたふと。猛もう兵へい強かう勇ゆうありりれが。北きた國こく勢せいの斯かくまで
 小こ。放はな走そうまるを看みより。送このづ國こくと外とほさで退かへるさんと。跑は出でし激げき
 音おと出でると。秀ひで吉きち大だい不ふ制せい禁きん。一ひとの敵たかと。提たて返かへつた時ときわら。汝なんぢ儕しを
 去さて提たて返かへつたれば。吾われ指さ揮かと。お侍さむらい。方は僅わずか菟うりあ。破やぶ
 りせんが。自みづからも多おほく損そんむべ。猶なほ出で戦いくさの侍さむらいらむ。うらむ
 勤こゝろくべうらむと。宜のたまと。加か後ご福ふく島しま一ひと射やたり。進まで稟まをさ
 く。敵たか備び程ほど毎まいと。ろ不ふ退かへき。臨ま血ちと。繁はりり。果は果は疲つかハり。ハ
 ちや。然しかあ。ぬらち不ふ提た勢せいと。退かへる。もふま。と。搦くわ新しん

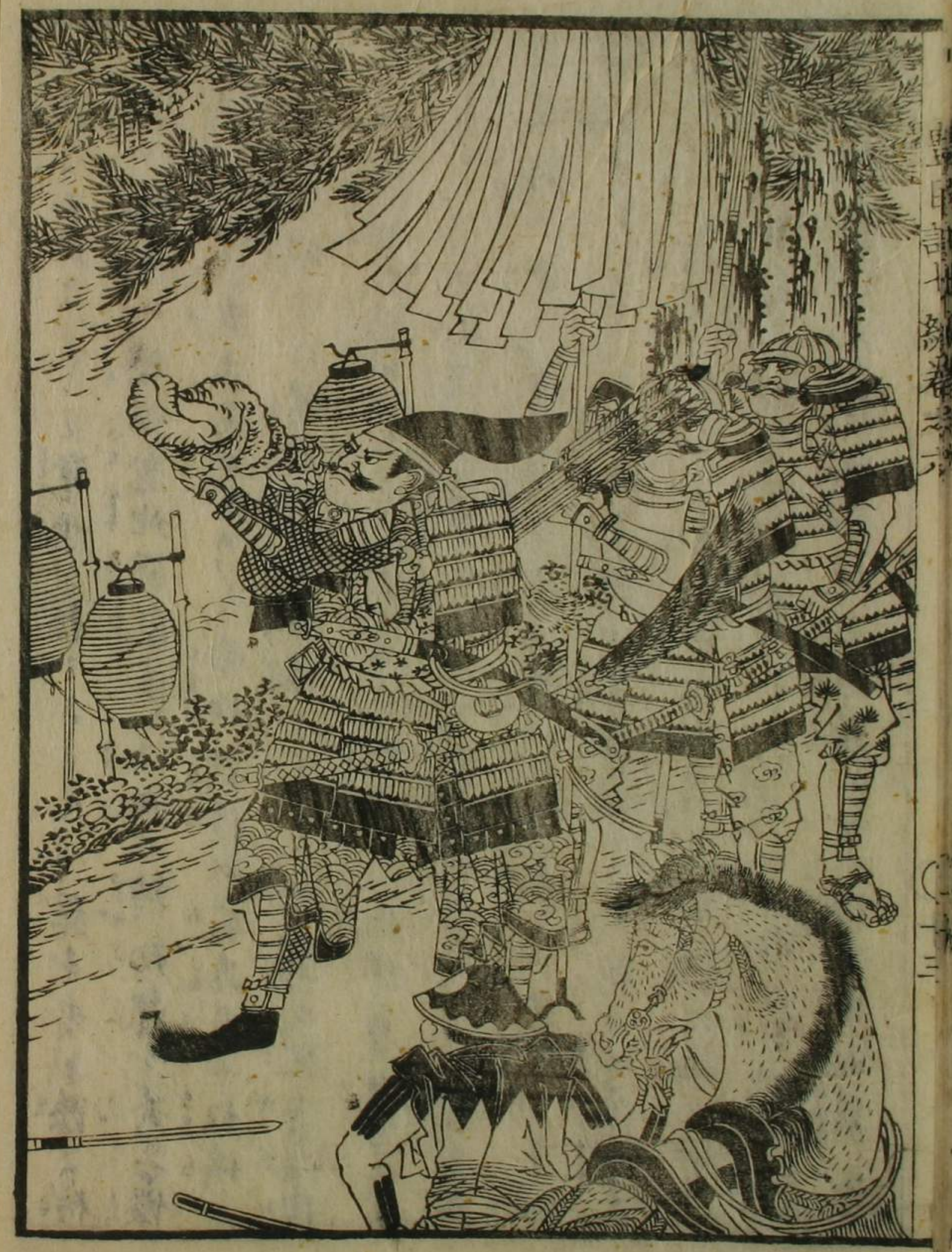
宗えりやと秀吉莞示と笑玉い。我も汝俸があれバこそ。羽柴
 筑前守秀吉の名と傳より。然るも汝俸がわかく。今然菟
 尔矣。崩さば。自方の勝利ありぬへりねど。彼疾死入るもすこ
 多うん。假令軍も傳バとて。其方共も互共あつて。我あんの
 喜悅あらんや。まづく。無糧あど喫して。由るく。勇と備
 べー。よき時をく。我指揮あして。兵隊の切城達を
 整まて。御あらんや。殊も秀吉が勇名と。野の上もあらんも
 のあつた。玄蕃がその方も浪良と。頂羽の縮骨と並持する
 とも。若くは。傳るるも。一。教時例の馬惚と。敵の後路く
 出をべー。敵備それをあつた。今も倍して。崩起せん。

月をや巽小向ふとれ。程あるま。と命をる河のま。終ら
 ぬ小西の嶺上燎三四焚出より。秀吉これを御覽あり。いでや
 序破魚の標と示さん。然るも濁り。茶ハるま。やと命
 ある。小生怖茶堂の在り。が。岩曲の下口。小長濱の百姓
 竹の筒より茶と出。天月にて。飲在るを。秀吉儼と御覽
 あつて。福鴻市松小命せし。茶と乞受。茶と乞受。茶と乞受。膜拜
 ていど。直行て百姓小向ひ。その茶と大將の望しを。西へり。快
 呈上よと。吟て百姓。是ハ剩小憚り多。勿体あやと。辞退
 りると。無理小不呈。持来り。呈上ると。待際。遅くと。茶碗
 と御平小拵。い。焼との命せ。小市松。正判。箭より。礮吐。く
 焼ると。一口飲。さまで。気。食。旅。小茶。小あら。む。して。酒。さ。ま。



浩茶とくと言鼓一五の愉快氣小二盃飲きて。渠が在在と訊
きべし。褒美の返日沙汰をべしと。今小市松意属條磔と
飲んと筒傾け。磔めと文不無りし。嗚呼。踐念やと咽喉
鳴し。養氣と減をを笑止る。鼓腹一五の汗愉快やと令せり。洞と共小西の孝子。凱と主
なる金の十生瓢の馬標。飯子の五色の吹貫。旗ハこれそのえ
しめ。御指揮ありて。篆刻青山。福田侘と。先へ出て量らせり
るる。殊文た日の教よりなれば。僅小三分飲されど。月光
さふから正書の如く。澄淨りする。昊天小。微塵をくりも。雲生
るれば。彼馬標。照添て。千枚副する。兎瓢ハ釋る星の月
と權護するが如く。周前羞明輝をくる。他軍ハ殊文自軍

も共。おれよくと。驍勇を難くとし。馬器を看と。膝上佐
久間が陣中の。燎炬忽地混亂は。北兵が轉初態と。秀右儼
と。津覽あり。然おそわらめく。愉快故。徒の不為先や。奴侘が
心説と。脱殺して看をべし。快傑もてよと。命あつて。棍上の法。操
と。取極む。近士の人と。小室ふやう。我平日ハ軌律ある。軍とのこ
成来りし。が。遠遭の合戦ハ。をこし。自由と。つをべし。然どる
日來。滅が如く。軍ハ締ともつて。成べふ。功譽と。心不拭ると。必
む。深入まべう。は。却て。合戦の肯繁なること。故と。専不撃ん
より。故。子破られざる。こそ。要なれ。追撃せんより。取て。返と。専
として。進退自由と。心不拭べし。今日の合戦ハ。君おもふ。因
小。出ると。つとも。故。備必。死。子。防。戦。さ。さ。バ。強。不。困。艱。軍。なり。



これと俗
中折が瀬
七本鎗と

家より碾礮る猛勢にて。激憤烈怒する相へ。金毛の柳の
火山を失り。銀皮の象の泥海と狂哮する勢威を發し。凜々
として猛出せし。同日覺し。くも示忍し。うりやうり
賊嶽七本鎗三口刀功競内
正剎極解
ハ川お安井
頭を擧て城とあり。尾を掉して。旌と赤を。ハ。李賀う。猛虎行
の好施の句あり。其句と。茲小羽柴家の英雄。千軍も放て。故
一拒抗し。故と。臺て。退ぞうんと。繪綽整して。自方と。懋まし。
退まくと。鳴り。く。嶮岨と。折小馬蹄と。絶也。尤方の。深谷

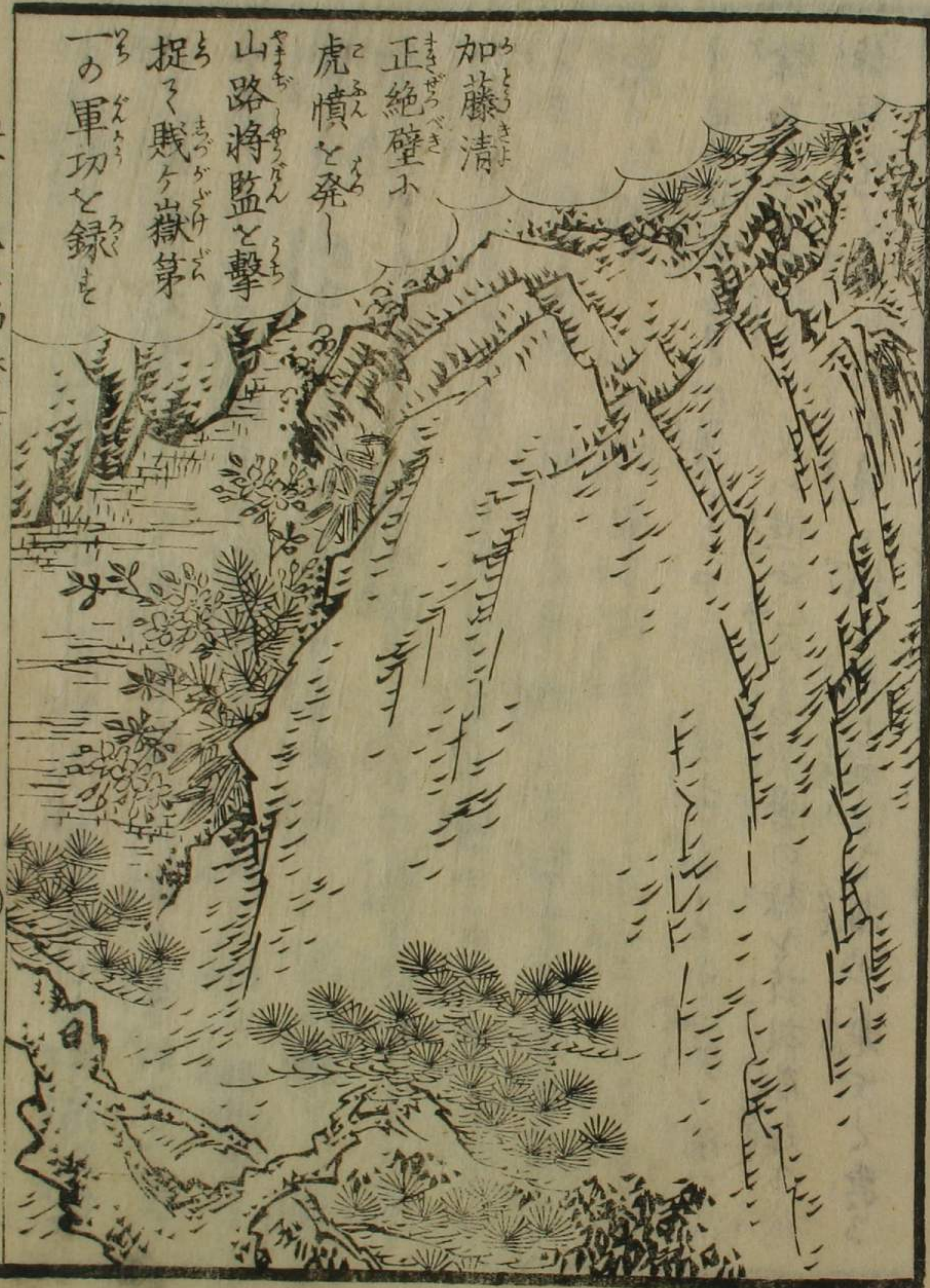
此戰場へ
夜軍はて
山岳の難
処ふどい
定んで馬
の武者有
まどきに
文勢画鎧
とくらん
さめ托て鞍
鎧を用
とと評セ

右子小い。き。岑。高。嶽。一。由。郊。月。の。廿。日。ふ。ま。じ。バ。脚。踏。花。盛。小。冥
輝。く。我。目。と。ハ。ワ。ど。さ。ふ。く。う。小。紅。を。澆。る。山。風。京。小。我。國。と
ま。う。風。流。ふ。らん。浩。る。処。へ。羽。柴。家。の。第。一。人。と。号。へ。ら。れ。る。
加。茂。虎。之。助。清。正。我。く。う。富。石。沈。く。る。越。乃。危。路。の。歎。ひ。あ。く。
蹄。と。鳴。し。正。剎。小。邪。と。孤。を。く。馳。來。り。し。ぐ。る。茶。小。軍。後。よ。死
故。と。得。と。り。是。ハ。拜。々。死。光。清。つ。た。名。院。將。と。波。年。人。止。盈。欠。と
り。者。あ。り。て。獲。の。名。色。も。風。流。あり。退。路。の。拒。抗。お。い。く。雄。々
しく。飛。々。り。と。ば。加。茂。清。正。近。く。馳。進。意。勝。く。や。あ。も。り。れ。ん。陰
歩。押。て。大。喜。小。是。ハ。加。茂。虎。之。助。清。正。と。い。ふ。者。あり。大。張。り。あ。ら
ん。下。の。羽。柴。小。武。者。の。負。剎。あ。る。ん。が。羽。柴。が。家。小。邪。と。り
陰。の。茫。の。活。き。と。承。て。飛。上。と。擧。出。と。と。戸。波。集。人。も。強。士。と

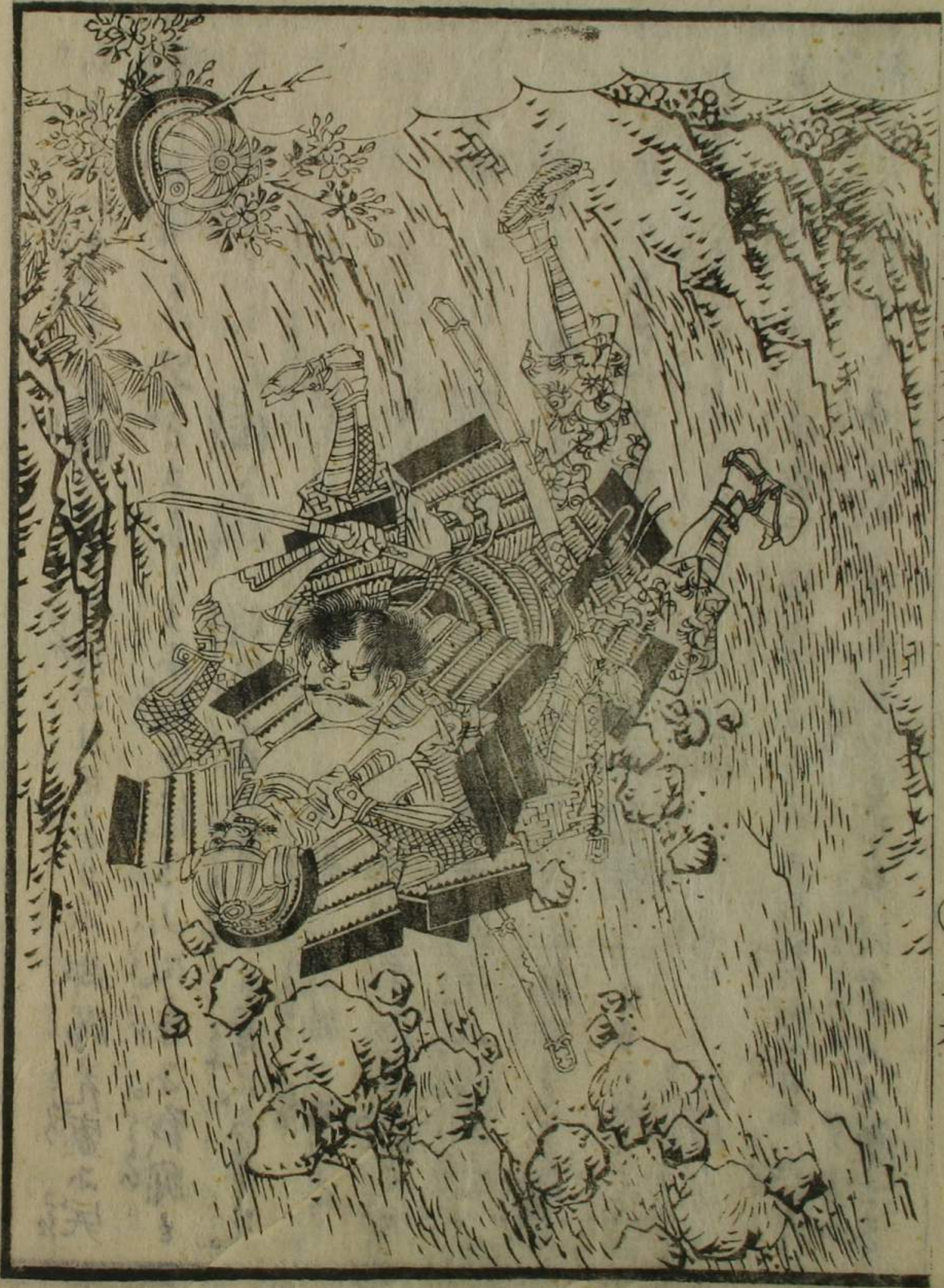
豊臣記二編卷之六

一三

加藤清
 正絶壁
 虎憤と発
 山路將監と擊
 捉る賤ヶ嶽第
 一の軍功と録



豊臣記七卷第六



豊臣記七卷第六

一六

且バ裏入りと絶遠い尤右へ二三互拂去しりども了得小氏
 勇の清正が大喝ありて猶出ま強ふ戸波が今那のこま
 やありらん子権板より総角まきく血烟り稠く板抜くは
 鞆うつろつ穂墜るを清正登くも首権落し一橋不挿こ一
 囊へ收めくろくびる結整し清水の岩を進むところ小
 結後くろ山跡お監土の色が武勇不慢ぐらるゆへ加後と
 小児の如く小侮り近よるべ唯一指と身動きもせぬ相とあて
 免くも殺せし山跡將監を込動くもやと考をとり京末期
 くる正國を色バ得たりやらと捨歩合を小山跡が捨ハ丈
 餘さるも加後が捨ハ僅小八尺書具磨の棟と枝扱鷲短子捨
 綽辭をく棚ハ目庇免く低く鶴ハ免をを掠め免やと考る

際小結んつ解つ。傲電走て起巖と裂き。暴風巻て脚指を
 揃くも遠勢威くやわらんむらん。看籠る色バま。月影を
 行勢の関く係く。張西子ねよ燕子の翅と舞をむりまう雙
 方怒突憤發して。四臂の曲伸八蹄の。字低後急去く来く。稍
 甲乙も看ざりし。百練千磨の清正が力信不致つ棚つ思の
 案小接るるれば不得の將監方僅ハもや捨法授きて會擇
 うぬ。然も骨肉身小隘とて。力自煙の正國をれハ。清正決那
 吾力を不及びハ。毛まじと侮りて。馬を揺下跳退去。樓車とり小
 虎之脚も望むところ。捨抛弁心。のろち小おの色也。叛忠也
 檻松奴されハ。活板ありて所陣。業行確。最れんと。十
 分不憤怒と合し。那と四子と樓合も。小。両士劣らぬ。大カされ

怒牛が角子石と割んと。激呼菟は。憤虎の牙小織をも
 碧んと。暴討さ。猛勇の踏張細る力脚小。客零溪も山胡るた
 う。後とも途と相合たり。正國享年三十八歳勇力氣力共小
 壯盛の一将やして。坊てや殺せし身りうなる色は。今止軍の
 後時何國の地ふり此身と授せん。輸る軍小將監が。活て
 功を命とバ。りりせ惜有つたに。彼を伐取らば遠地とさる
 中。勝たら天下は撲つせん。死生と決して。激奮は。山路
 と些も撓さやを。樓煩を清正も廿二歳の抜山杜海鏡力ハ
 恰も涌が如く。天下獨歩の豪傑ふして。豊公充太の突る士
 なれば。なごう將監愜ふべき。遂不加爰小横布と。鬼や成刀一
 利の下小。就下の鬼と化らんむると。正國も了得の勇士加

爰小刀と割せしと。虎之助が要腕と。爰摺ぎハ一振るると。折
 て製鋒め。唯一利と編菟る。臂と山路が隔せしと。軍ふ太太の
 猛力。一塊岩と踏碎れ。三四尺布と振び一が。踏踏花の葉小
 止まりたる也。清正速くも記んとをれば。いうせしや。虎の
 爰掛。踏踏花の指小板棠り。抱と擇擇と致とぬと。山路得と
 りと要腕突張。起んとをると清正。起させしと。致爰を度
 當小將監踏致り。尻岩るんバ。趾得む。虎之助が。刺摺小。怯
 若る。怪落菟ると。清正も速く。忍の結と。切存たれハ山路
 と共に。樓意ながら。陰隠くこと。十丈むり。腰落る。虎之助
 ハ。踏止んと。をれども山路が大懸小。柱廻られて止り得む。谷
 底深く。墮入り。これが。あ小正國へ。総身疲果多と。清正

へまこゝも焼まじ精神をく健うなれば直小山路と括て
 壁へ方の如く首擗剝て彼後裏不取收り素の不不絶登り
 宛と彼ぎ馬不跨り嶺門結みぞ菟り多。粵に又石川兵助
 貞友へ良故もやと返嶺那谷逃行依久間が後並武者と六七
 人へ懸投されど名もなき武者由良全抱舞四逆と視鏡を掛
 會こそあま北國の勇士安井元辺が舍弟あり多。同並良
 五郎清長暴刃の敵歩揮て取て返して舊地小石川同並
 て擲て菟ると得たりと兵助同合せ紫の解つ板去へ右不鏡
 り左小賽りりづと平勝りいつとや寄る紫と見惚り期もな
 と安井焦燥て突飛を陰籠軍玉匿し微らんとする。其際
 と速く石川が鼓を下して翻流と跳四郎入新ハ背と鉄

まゝと。又又跟方へ跳退去て。又擲由を上陰と。同新不十分引
 取て。身と沈めて陰下を潜脱さす。兵助ハ安井が腹肚。右より元
 へ斬る。深瘡まゝも活氣の清長陰抱舞て太刀と割入
 と。もろもろ遅く石川が。擊太刀殺時の速くして。安井が左の
 膝より。頷けて頭下られ。醫不不撞と僵るを。壁へ首以
 提たれども。瘡ある首を愉快らむ。此上小石川良首取て
 陰の上不達んもの。まゝく。鏡で進登は。頻不故と逃起
 二百歩。しりり進むところ。距離後の大將并々五方集久盛
 が。背面貌と看るより。斯ハ良故と走菟り。大音声不呼
 もつて。下下。雅そと同菟ると。又九郎。後背晒り。新ハ加洲大
 聖寺の城を。并々五方集久盛なり。圖魔の廳一通り。とくハ導

石川兵助初戦

安井四郎と

隊々再闘

拜御久盈ふ

當らんと

まゝ



教してくれんぞと。槍捨俣へ馳合を。石川大不統起。重む不
 の故ありと。太刀鞆固く搦整へ。獅く吼ありて。起向ふ。雙
 方歩行立まりたれ。進退意の行が如く。舒る。槍不猛風
 起り。巻る。刀下小黒雲。碎きて。巖を鳴へ。指と躍ら。山裂
 水沸威を顔へ。連ふ。名を羞。義と重ん。ト。一步退る。と。剛ふ
 あり。浩る。雨へ北國勢。おく。と。退く。葦あり。た。が。これ。同
 く。群々。老黨。十六七。騎取て。返へ。東西一時。小石川。と。搦整
 んと。搦綱へ。う。バ。又。在。束。つ。ハ。兵助。と。この。兵。輩。不。任。せ。置。東西
 別。と。と。あ。り。て。玄。蕃。が。跟。と。慕。ふ。て。此。へ。退。返。を。石。川。兵。助。負。友
 ハ。當。の。故。と。見。通。し。る。を。結。念。し。ハ。お。も。い。と。も。二。の。故。多。勢。多
 くれ。ハ。跡。追。こ。とも。あり。難。く。増。て。そ。も。も。疲。る。小。口。角。ハ。雨。際。際。も。あ。く

亂。槍。不。搦。起。ら。と。三。騎。まで。ハ。薙。腫。せ。し。う。と。窮。不。ハ。八。口。所。深。瘡
 と。着。り。堪。り。得。む。し。て。斥。岸。嶺。小。血。し。泥。長。刀。搦。り。あ。が。り。外
 落。こ。と。搦。と。轉。墜。九。死。一。生。あり。と。い。と。も。起。て。ハ。倒。は。僵。て。ハ。記。を
 ん。と。し。て。字。義。の。方。と。杉。感。氣。不。見。遍。在。た。る。交。へ。福。嶋。正。則。が
 新。叫。虎。喚。し。て。進。來。る。強。て。加。友。清。正。も。送。不。す。て。飛。進。つ。も。群
 る。故。の。石。川。小。仇。せ。し。女。輩。と。被。教。し。谷。際。と。寄。る。ハ。兵。助。が
 絶。え。ん。と。し。て。伏。る。由。系。或。ハ。驚。さ。或。ハ。嘆。き。兩。人。借。不。谷。間
 へ。下。立。被。く。勅。抱。り。た。れ。ど。も。勿。く。活。べ。れ。相。も。あ。く。不。決。く
 小。死。不。向。と。ま。清。正。正。則。不。攸。不。お。も。ひ。石。傍。を。掬。し。て。兵。助
 分。層。不。灌。流。ハ。風。大。忽。地。度。り。し。小。や。雨。眼。を。齧。と。見。睨。二。勇
 分。敢。と。儼。と。現。て。喜。喜。し。や。最。期。の。只。今。明。輩。の。絶。後。う。て。



石川兵助名の
深谷又没せん
緯と惜ぐ
一言伏
加藤福島
遺を



對面たいめんなるこそ。此上この上もなき僥倖まよひされ。兵助へいすけ終令しゆうれい送谷このこして死と
 遂とるとも我功わがこうの斯ごとの如ごとし。是これと主君しゆくんへ御披ごひらあつて我思わがし心と
 達たつして給たまと腰こし不ふ恙や多た。安井やすいが首くびと秀ひでされば加か後ご福嶋ふくしまはま
 まく悲衰あはれを催もよしつ。いづふも俺們われら斯ごとくも。決度けつど視徹しちつさる上
 へ。後日ごじつの澄人じやうじん至若しやくわくの御茶ごぢや宜よろさ言條ごんじやうしてたてまらん必かならむ
 氣煩きづらひふふふと。聆きてや兵助へいすけ安途やすとありん。忽たち地息ぢいき絶死せつしし
 終しゆうんぬ不便ふびんまぐるも。兩人りやうにんへ。大切たいせつの戰場せんじやうなれば是これ熱あつましく見
 弄もてて送おく出だせし。猛もう中ちゆうふよく憐慈れんじを合あて。獅しくが牡丹ぼたんと愛あいを
 るも。斯かくやとたより懐行おほいらまぬ。然しかれどふ北國きたくに勢せいハ。叔おんぢの猛威もういふ
 侶りもやう先さきと争あひ放走はなして。山やまく谷やみく自己おのれが慈あままふ右
 往むか充み往むかと逃にげ出だを。あふふも拜まが々まが久ひさ盈みハ。玄蕃げんぱんが無謀むぼうの軍つぐみと

好このく。自大おのれ我慢わがまんし驕あごりて。由よしかき敗軍さいぐん不造ふぞうびし。率しよくと長柄ながえ柄えい
 おもひたる也なり。今いまハ悔くみて尚なほ遲おそし。只ただ潔けつく我死わがしして。名なと後代ごだいふ
 輝あかりさんと。覚おぼれと決かして取とて返かへし。追お来きる敵たてと捲まり返かへし。滅多めつた
 小搦せせ伏ふ去き。自分おのれと扶たすぐ血ち戦せんふを。久ひさ盈み高たか月の戦せん將しやうハ。薙は草くさ
 して依よりたる。白檀びやくだん碾磨せんまの大おほ鞞ぎんと。袖草そでくさ摺すりの三さん宿しゆくまて。赤白せきぱく
 隔ちが面めん小こ城じやう下げ。盈みハ浪なみの天てん衝つ形かたちふ。廿にじふ日月にちげつの表おもて立た希まれふし。
 淺あ柄えいの陰かげの極ごく意いまふ。千段せんだん巻まき血ちと縮ちぢらせ。自勢しよせい僅わずかふ
 女に騎きむらう。馬うまの後ご不ふ従したがもせ。突つと叫おびて上う方かた勢せいを。庭にわ戸と濱はま
 飯いの浦うらへ出でる。不ふの乾か不ふ迎むかへ骨ほねとも壺かふまらぐらう。千段せんだん百ひやく化けの
 劍けんとを。身みとを。途とと死し時ときが量りかへ。息いきとも次つぎて血ち戦せんし。る
 小こが騎き絆きの老らう車くるまも。食い勢せい頼たして。方かた僅わずかハ既い久ひさ盈み一いつ騎き立たと



豊田市松の怪勇拜郷

豊田市松の怪勇拜郷

九

かまども。一口の瘡と身不被む。勝驕る多勢の敵と。些と
 も怖まを踏蹴り。大羅殺鬼の暴る像く。濱辺一町。うらふ量
 ハ。罅小して亂殺する。是運遭の返口小。第一番の距後。是
 がをり小上方勢の山。江辭小満り。一人の又九雷の
 小。心され。漸く亂を起ると。久盈得ると。一塔強く憤発さ
 ず。陰越より火と飛むせ。堅まれ横まれ。最後左右手。當る
 鞏ハ。既脚微塵。擲散さる。血濕風小。飛散首ハ。電の像く。瞬
 まる際小百餘人。正朱小泥て殺刺す。其身ハ。落傷も被され
 ども。噴烈し。我ハ小。姑く息を安沈怒と。福島市正列
 ハ。清水坂より。皓と視卸し。新ハ。良故を逃まると。乳鵬が
 兎兎を鼠ハ。る如く。決然と。て跑来り。標と着ま。バ。群ハ。あ

故。も。く。秋ハ。大音聲。小。群ハ。久盈。そ。と。還。不。福島市。正列。が
 陰。越。て。陰。鬼。と。化。と。叫。り。あ。が。う。擲。蕙。石。城。五。右。馬。の。荒。示。と
 笑。ハ。正。列。あ。く。久。盈。が。最。期。の。伴。小。倭。竟。あり。先。ヤ。死。生。と
 決。せん。と。う。倭。陰。と。業。名。追。つ。返。し。う。雲。変。波。化。列。突。ま。れ。バ。火
 熾。ま。の。怒。鬼。小。近。り。相。小。入。激。発。ま。れ。バ。爆。布。條。の。猛。獅。と。酒
 毛。小。浮。佛。し。し。共。小。喝。ま。バ。於。率。由。勢。を。同。く。叫。バ。阿。鼻。城。日。終
 が。せ。ま。ん。小。漫。く。布。雙。方。一。照。胸。う。も。一。虛。一。吹。隙。際。あり。千。塚。万
 磨。ま。る。あ。く。ふ。五。右。馬。の。ハ。れ。と。致。場。我。中。も。石。川。が。活。を。六。刀
 の。倦。も。有。て。腕。漸。く。疲。ま。つ。卑。陰。小。成。り。と。福。嶋。得。る。と。一。陣
 身。の。勇。と。君。と。ら。單。騎。急。小。熱。投。て。五。右。馬。の。が。標。陰。と。一。擲。烈
 一。叩。と。墮。し。雷。の。像。を。声。と。飛。て。突。出。を。絶。尖。久。盈。が。咽。痛。と

其より朝廷一尺四寸突貫抜を了得小猛と五九集つも正逆
相小るより瀛ると市松堅て首極尾一。これと笑一の四と
て。い〜く進んで幾〜ん。鏡〜くとそあえふられ

其二

伊木守七督大崎園方鳥 備谷助右衛門通
櫻井佐吉お宿在治部助 宿在七左衛門

逃る响のハ氣も交小虎と名一。逆ふ响のハ虎も却て氣と見也
然ハ敗る氣と臆とて。山路絆ハが流勇も殺特子獄野の法
鬼と化。清正正則の英雄ハ一聲のうらふ巻と得て七女給の名
と羨也。是金大将英智ハ一と。國と察て指揮と傳る鐔刀の
鞆小投が如し。呼てやとわ小徒ハ勇士ハ一。遠ともつて千徳小
あう。百丈も故〜と面と向得也。古今獨歩の門〜あれば。あ

久望も猶緒もとび。羊腸虎尾の難石と厭も。鏡進で
運菟と。魁〜と〜と〜と。幾ふあう小も。羽柴殿の和列ある。伊木
守七勝重ハ。享年〜と〜と十七歳。縁と損せる徳角堅小。淺黄
の縮の翼あり。二尺九寸の大歩刀ハ。深根より獨歩も。所
弥て看目も活く。鏡映ヤ化〜と〜と〜と。思も〜と〜と。大
和の口と。雙面撃も。はる驚〜と〜と。北國勢の群ぐる中〜と〜と。拋磐石
の猛威と奔〜と。正一の地小斬て投右〜と巴行〜と。左小之歩し。
向つる故ハ勿編も。逃るとも。命道も。と。東西南北
に薙で早〜と。高低深小。接砕く。太刀ハ敵小あ〜と。北
國武者ハ飛花落葉一帯庭と掃ふが如く。魚を叫んで攻
起る。是妙藏子名と揚る。三は刀の一個あり。遠勇猛小。我

希勢清水谷と十所なり。演辺の方へ碎奔して。之を整へて
 ありがごとく。将軍一存総廢し。脚と期と逃る。そまがまうふ
 只一騎名と重んずる勇士と見へて。我ハ依久間ノ自内りおい
 て。大崎園右衛門つとつ小者あり。逃ると逃の易さ小替て向ふ陰
 継受て居る。二の命持あらば。若び自方と逃まへば小量覺
 醒せよやとをり。他を罵り耻しめり。擲て蕘るを伊木守
 七将を敵の橋をくふ。先相腕の量と試せんと。奥で撃太刀
 霹靂火劍の猛威小大崎も驚とせし。侍の勇士性もそ
 太刀を扱去り。突出を陰ハ侍青鵬が。凜冽と一々翻くどく。
 兩雄の殺氣高く。沖りて。廣寒宮を震ふくと。懐むるが不挑
 合然とも。傑氣無雙の軍七園右衛門が。御を敵んと。身と倫

まさきと大崎ハ。只一擲と息燻て。福を。然矢ハ。半七が。幽標
 の面を擲扱つ。引んと。まき小纏兜へ。當標當て。離る。ぬ
 其際。伊木が。陰下。竄り。一足。進むと。見え。一が。左。確
 小腹。吐。胃の。腑へ。深く。刺。進。ぐ。徹。小。少。女。の。伊。木。が。擲。扱
 勝。と。う。と。今。日。一。の。功。籍。小。と。を。授。け。られ。茲。小。亦。柴。田。勝
 理。進。が。下。の。將。小。曾。名。社。國。不。鳴。一。さ。宿。屋。七。九。本。の。兼
 清。ハ。今。日。無。謀。の。放。軍。と。い。ふ。膝。懐。の。し。り。小。お。ひ。逃。め。く
 自。方。小。局。引。て。退。る。あ。が。う。も。義。度。と。あ。く。取。て。返。し。て。逃。來。る
 故。を。擲。扱。く。鳥。井。坂。の。西。境。尾。山。と。庭。戸。の。隅。後。が。崖。を。登
 退。て。來。り。行。場。陰。し。を。坂。の。小。馬。を。引。め。防。我。の。侍。の。西。へ
 羽。柴。の。勇。士。接。井。元。吉。吉。純。が。正。解。菟。人。と。進。來。り。端。あり

七本鎗の裏
糟屋助右門
一突して宿屋
七九工門と撃



尾口の橋が崖より。宿屋兼清子行途より。屋敷將清系
 あれと岩踏鳴りて走菟久。無二無三小破る。七右衛門も今
 日の敗を看て覚悟あり。對敵揮で踐死せん。心を決しけ
 る由も。運くこと。率とを。送所まで返さる。櫻井元吉が
 馳来る。又十歩の送方小看候。一久。峻阻と敵不受せて。
 腕はぐりけ。欲成撃投。然し。戦死をせんもの。遣て侍共
 秋毫知らず。喚て菟久と。七右衛門。挿へ九尺あり。冠尖三尺
 月山が。飛ね。大砲の。纏り。操合せ。櫻井元吉ハ。敵小傳る
 貞宗が。佐の。三尺八寸。一刀。一輪。同合出沒。猛威と。格ふ。不
 へ。傳聞あり。送國の。古。心見。流小。戦つ。守。鯉魚と。鯉
 紋が。憤怒も。斯やと。怖ろし。宿屋ハ。縁て。巧く。し。

櫻井元吉脚。下悪く。操自由あり。さきと。菟久と。虚さ。七
 右衛門。突出。陰謀。と。活く。元吉が。太刀。流。効ハ。獲菟久
 免る。看れど。櫻井元吉。強り。元軍も。前軍も。前記
 て。おも。雙方。東西。別と。さう。さ。元吉も。苦戦。せ。こ。よ
 り。敵口。所。不。勝。と。出。り。り。や。元。僥倖。と。して。跟。追。菟。久。を。姑。く。休
 息。あり。り。と。七。元。系。つ。か。等。あり。宿。屋。次。郎。助。これ。と。見。て。兄。が
 これ。も。ぞ。と。碎。を。擲。候。し。彼。敵。を。活。然。と。そ。法。會。を
 と。兄。不。代。り。て。警。止。んと。走。り。菟。久。二。三。合。剛。ひ。り。り。が。西。側。を
 走。り。陰。掩。弁。て。無。防。と。力。擣。操。せて。櫻。井。元。吉。も。撓。ま。る。
 二。王。の。像。を。腕。指。針。し。次。郎。助。が。右。手。の。法。齒。と。勢。持。不。振。る
 よ。と。看。る。際。の。同。も。ま。と。定。ら。さ。る。不。用。脚。擧。て。元。吉。の

発して腕膊も出ると強く跳る。返勢威不宿屋次郎助様む
 とらと扭倒し。遂くも首と極頑て其身へ来不條ふがう感
 として返返を。玄へ暮地不跑来る勇士。四天なりの悪作し不
 打締もつて金の角取紙と結ひ去る。當標背字不標し
 へ羽柴殿が腕股の勇士獲屋助右衛門武判あり。今返不
 橋井が宿屋兄弟と戦立ると清水谷の坂口より看をへ
 返方へ跑来り。宿屋七左衛門へ逃くも返て。舍身治郎助
 と懸振りりゆ。叫良欲と窮途せしこそ我念を。揚てや
 尤吉不病と被せし。遠候活て返をこと。かへくも懸懐
 あり。先武則が懸振て。橋井の怪恨と懸められんと。懸
 と懸長不捨陣新。軍法天の像く。重菟り。それへ羽柴の

清内不おいて。猶谷助右衛門武判あり。返捨承と突菟る。
 宿屋兼清急入ると。捨陣整して丁度合せ。発と突ハ止を
 停め。上下来まは落して去り。下不向へハ踊越馬と人との轉
 輪及震着と拂へば後と塞ぎ。右不閃く。冠尖と去て尤不
 操出を。冠の光。一駒小千流万世。おとも突とも。逃互不。挂
 まを撓まで。戦ひし。猶屋が常氣や一場し。人激して
 擲出。冠ハ火の如く。宿屋が冠冠と突すと。冠へ。冠先上
 りて合多利の綿と拂て突抜られ。了得の宿屋兼清も。何
 久堪る。了と得ん。捨と極極る。宋波らちまの嵩が。發不
 操と。操は。水。た。ち。ま。ら。愛。し。て。盧。紅。糟。屋。ハ。虚。は。流
 馬より。跳。卸。総。角。投。て。正。伏。不。捨。へ。首。捨。懸。し。り。り。り。流



三口刀の
 裡伊木
 半七大等
 團右工門
 と撃手
 櫻井左吉
 宿屋次郎助
 と隊。此石川
 兵助を並せし
 至口刀とせし

皇正臣二編卷之六

廿一



皇正臣二編卷之六

廿一

汗行が捲らる。是七本槍の一個不_レして。衆人のよく知_レ取也。
 奥不_レま_レ平野九右衛門泰久ハ。控平長泰の鱗と惹_レて。をや
 くも庭戸の坂のま_レて。播_レ不_レ播_レて殺_レ奪_レ一_レら_レ分。棟_レ雷_レ法士不
 異_レ替_レり。を不_レ熟_レし_レる大_レ薙_レ刀。逃_レ生_レ故_レをか_レきてハ_レ倒_レし。葛
 てハ_レ胸_レ破_レ背_レ條_レ割。血_レ潮_レ不_レ繞_レら_レを又_レ冠_レの_レ結_レさ。血_レの_レ海_レ上
 不_レ能_レ骨_レ車_レと。そ_レて_レ逆_レ卷_レ大_レ波_レと。天_レ不_レ運_レぶ_レが_レ如_レく_レあり。尾_レの
 庭_レ戸_レの_レ隙_レし_レて。雜_レ兵_レ四_レ十_レ斬_レ倒_レ。良_レ武_レ志_レも_レま_レ二_レ三_レ跨_レハ_レ首
 撃_レ投_レて_レ烈_レ哉_レあり。衆_レ不_レ認_レる_レ捲_レせ_レが_レど。後_レあり_レされ_レバ_レ七_レ人_レの_レ刃
 不_レ容_レら_レぬ_レを_レ朽_レ爛_レ乃_レれ。是_レ倭_レの_レ勇_レ士_レ思_レく_レ不_レ弟_レ命_レ惜_レり_レ猛_レ力_レ勇
 根_レあ_レらん_レ踏_レり_レと_レ戮_レ爾_レ乃_レれ。佐_レ久_レ間_レが_レ軍_レ勢_レ総_レ崩_レと_レあり。折_レ取
 の_レ方_レハ_レ亂_レ走_レせ_レし_レハ_レ愉_レ快_レと_レを_レ名_レへ_レり_レ乃_レれ。豊_レ臣_レ記_レ七_レ編_レ卷_レ之_レ六_レ終

